

## 原因分析報告書要約版

産科医療補償制度  
原因分析委員会第四部会

### 1. 事例の概要

経産婦。妊娠35週、超音波断層法でBPD9.5cmであった。妊娠38週1日、妊産婦は陣痛発来のため当該分娩機関に入院となった。入院から1時間18分後に子宮口全開大となり、その8分後に経膈分娩で児を娩出した。臍帯巻絡、羊水混濁はみられなかった。

児の在胎週数は38週1日で、出生時体重は2800g台であった。アプガースコアは生後1分9点、生後5分10点であった。経皮的動脈血酸素飽和度は95～99%であった。生後1時間10分、鼻翼呼吸、喘鳴、チアノーゼがみられ、経皮的動脈血酸素飽和度は56%へ低下し、マスクで酸素投与が開始された。落陽現象も認められた。その後、経皮的動脈血酸素飽和度は安定し、酸素投与は中止となったが、再度経皮的動脈血酸素飽和度の低下がみられ、酸素投与が再開され、生後3時間4分に保育器管理となった。生後8時間34分、授乳時に落陽現象が認められ、哺乳中に経皮的動脈血酸素飽和度の低下と口唇チアノーゼがみられた。その15分後、高次医療機関NICUへの搬送依頼がなされた。

生後9時間51分、高次医療機関NICUに入院となった。入院時、陥没呼吸は軽度で、眼振、痙攣は認められなかった。眉間の上方の頭部にマッシュルーム様の拡大が認められた。動脈血ガス分析値は、pH7.35、BE-2.1mmol/Lであった。頭部超音波断層法では、左上衣下に高輝度

域がみられ、左脳室拡大(特に後角)が認められた。先天代謝異常症等スクリーニング検査、タンデム質量分析は正常であった。生後2日より哺乳が再開された。生後11日の頭部MRIでは、「右側頭葉くも膜下、後頭葉外側等にT1WI高信号、T2WI低信号の所見あり、左脳室拡大あり、横断面で左後頭葉が右に比べて肥大している印象あり」との所見であった。生後24日に退院となった。

生後1ヶ月及び2ヶ月の頭部超音波断層法では、脳室拡大の程度は変わらず、頭囲の拡大傾向も認められず、水頭症には至っていないとの所見であった。全身の筋緊張低下、精神運動発達遅滞を認め、気管挿管を要する誤嚥性肺炎を繰り返し、生後1年1ヶ月から経鼻経管栄養となった。染色体検査は正常であった。生後1年8ヶ月にてんかんを発症した。頭部CTでは、「頭蓋の左右非対称、側脳室軽度拡大、脳実質内に石灰化なし」との所見であった。

本事例は病院における事例であり、産科医2名と、看護師1名、准看護師4名が関わった。

## 2. 脳性麻痺発症の原因

本事例における脳性麻痺発症の原因は、分娩中に胎児に酸血症があったとは考えられず、分娩時に起こった事象の可能性は低い。生後11日の頭部MRIで左脳室拡大や左後頭葉の肥大等の所見が既に認められるが、破壊性病変がないこと、全身の筋緊張低下や精神運動発達遅滞が主要な神経学的後遺症であること、出生後のチアノーゼが中枢性の呼吸抑制によると考えられること、頭部の外表奇形が認められることなどから総合的に判断すると、先天性の脳形成異常が強く疑われる。

### 3. 臨床経過に関する医学的評価

妊娠経過中の管理は一般的である。妊娠35週の超音波断層法によりBPDが9.5cmで経過観察としたことは一般的である。

妊娠36週6日に陣痛発来で入院としたが、翌日の内診所見に変化がみられず一時帰宅としたこと、妊娠38週0日に妊産婦が規則的な子宮収縮を自覚し受診した際に、胎児心拍数陣痛図の所見と内診所見から自宅待機としたことは一般的である。妊娠38週1日の入院から分娩までの管理も一般的である。

出生直後から新生児の経皮的動脈血酸素飽和度を測定したことは適確である。異常発生から新生児搬送依頼の連絡を行うまで8時間近く要したことは、児が経皮的動脈血酸素飽和度の低下を繰り返し落陽現象がみられる状態で、酸素投与のみで経過観察をしており一般的ではないとする意見と、原因検索や対応を検討するために時間を要することはやむを得ないとする意見の賛否両論がある。

### 4. 今後の産科医療向上のために検討すべき事項

#### 1) 当該分娩機関における診療行為について検討すべき事項

##### (1) トラネキサム酸の投与について

妊娠中におけるトラネキサム酸の投与については、「産婦人科診療ガイドライン—産科編2014」を参照し、検討することが望まれる。

##### (2) 臍帯動脈血ガス分析について

臍帯動脈血ガス分析は、分娩前の胎児の状態把握に有用であるため、実施することが望まれる。

##### (3) 診療録の記載について

本事例では、超音波断層法による胎児所見や出生後の児の状態に関する

る説明内容の記載がなかった。妊産婦および家族へ説明した内容については、診療録に記録することが望まれる。

## 2) 当該分娩機関における設備や診療体制について検討すべき事項

特になし。

## 3) わが国における産科医療について検討すべき事項

### (1) 学会・職能団体に対して

分娩時に重症の低酸素・酸血症を呈しておらず、何らかの先天的要因によって脳性麻痺を発症したと推測される事例がある。同様の事例を蓄積して、疫学のおよび病態学的視点から、調査研究を行うことが望まれる。

### (2) 国・地方自治体に対して

特になし。